年　組　番号(　　)　名前

自由民権「エモい冊子に」

運動150年の石川、若者へ紡ぐ

渡辺さん（右から２人目）から説明を受け、冊子の内容を考える生徒たち ▶

動画や漫画、イラストを交えた冊子で自由民権運動について若い世代に知ってもらう。石川地方で運動が起こってから150年を迎える今年、歴史団体と学法石川高生がタッグを組み、こうした伝承の試みが始まっている。「目を引く工夫を」「キャラクターを活用しよう」。固い内容を分かりやすく訴えるため、生徒たちがアイデアを尽くす。

冊子の名称は「石川民権まっぷ」。パンフレット形式で、町内の関連史跡を案内する地図を掲載する。21日に開かれた検討会では、生徒から「つまらないと読む気がなくなる」、「キャラクターやマークで見やすい地図にしよう」などの意見が出た。2年の中川晃さん(16)は「音楽なども交え、分かりやすい動画を作りたい」とし、曲山颯紀さん(17)は「もっと自由民権運動を勉強したい」と力を込めた。

自由民権運動は1874年、板垣退助らが民主的な議会の開設を望む「民撰議院設立建白書」を政府に提出したことを契機に始まった。石川地方では翌年の1875年に自由民権運動家で福島民友新聞創始者の河野広中が東北初の民権結社「有志会議（後の石陽社）」を設立。いち早く運動に参加し、地元から多くの人が集って国会開設などを求めるなど大きな役割を果たした。今年は結社設立から150周年に当たる。

冊子をつくるのは石川町の「石陽社顕彰会」と学法石川高の生徒。同会ではこれまでも冊子を作製、有志会議を設立するなど地元を舞台に繰り広げられた歴史や河野の足跡を伝えようと活動を続けてきた。しかし、従来の冊子には難解な部分も多かったため、若者目線を取り入れようと、同高インターアクト部に協力を依頼。将来を担う中学生をターゲットにした発行物の作製を決めた。

今回の冊子は生徒らが撮影した史跡の動画や詳細な紹介文にQRコードで誘導。まち歩きに活用できるモデルコースも掲載する方針だ。有志会議や演説会の様子を漫画風に紹介するほか、絵や写真も随所に入れて目を引くつくりに仕上げる。今秋をめどに完成させ、町内の石川、石川義塾両中学校の2年生に配布、副教材としての使用を促す。

同会事務局長の渡辺実さん(77)は「若い世代に伝えるには生徒のアイデアが参考になる。自由民権運動の意義を見つめ直せるような内容にしたい」と強調した。

▲ 6月24日 福島民友新聞掲載

動画や漫画、高校生アイデア

Q 石川地方の自由民権運動　1875年に三春町出身で磐前（いわさき）県石川会所区長の河野広中が「有志会議（後の石陽社）」を組織。地元の神官や元庄屋、教師、豪農らが活動に合流し、政府の弾圧に遭いながら精力的に演説会を開いて憲法制定や国会開設を求めた。河野は全国初の民会（県議会）開催にも尽力した。

記事から知り得たこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

調べてわかったこと、考えたこと（330字程度）

石川地方での自由民権運動を伝承しようとする歴史団体と高校生の取り組みについて、感じたことをまとめてみましょう。